

中小企業の

# 景気動向調査

千葉信用金庫

No.63(令和元年7月～9月)

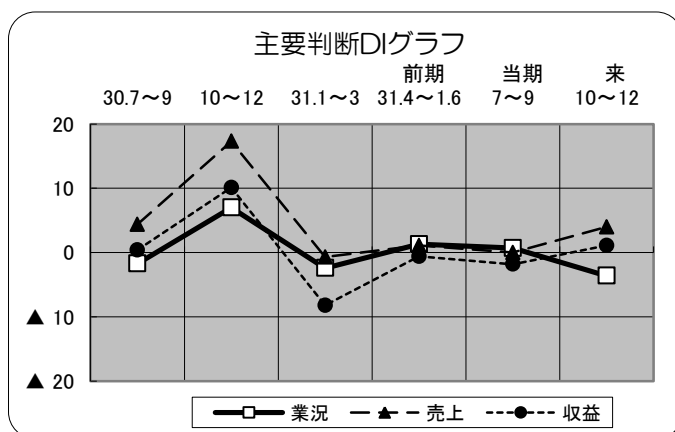
NEWSreport

**当期の業況は、建設業、不動産業は改善、総合でも改善**  
**来期の業況は、建設業、不動産業を除き悪化、総合でも悪化を予測**  
**(全業種総合)**

全業種総合の当期の業況判断DIは0.7と、前期から0.6ポイント悪化しました。前年同期からは2.4ポイントの改善となりました。

来期は、販売価格の上昇により売上高と収益ともに増加するものの、仕入価格が上昇し資金繰りの苦しさが増すことを予想、業況判断DIは当期と比べて悪化すると予測しています。

| DI項目 | 前年同期<br>30.7～9月 | 前期<br>31.4～1.6月 | 当期<br>7～9月 | 来期(予測)<br>10～12月 |
|------|-----------------|-----------------|------------|------------------|
| 業況   | ▲ 1.7           | 1.3             | 0.7        | ▲ 3.6            |
| 売上高  | 4.4             | 1.1             | 0.0        | 4.0              |
| 収益   | 0.4             | ▲ 0.6           | ▲ 1.8      | 1.1              |
| 販売価格 | 4.6             | 4.0             | 5.1        | 8.5              |
| 仕入価格 | 23.3            | 26.1            | 20.8       | 25.2             |
| 在庫   | ▲ 2.2           | ▲ 0.6           | ▲ 4.2      | ▲ 3.1            |
| 資金繰り | ▲ 7.4           | ▲ 9.3           | ▲ 7.4      | ▲ 9.2            |



## ※ DIの説明

業況判断DI：「良い＋やや良い」と答えた企業の割合から「悪い＋やや悪い」と答えた企業の割合を引いた指数。

売上高・収益・受注残・施工高：「増加＋やや増加」－「減少＋やや減少」

販売価格・料金価格・請負価格・仕入価格・(原)材料価格：「上昇＋やや上昇」－「下降＋やや下降」

在庫・設備状況：「過剰＋やや過剰」－「不足＋やや不足」

資金繰り：「楽＋やや楽」－「苦しい＋やや苦しい」

本調査は、当金庫お取引先のご協力を得て調査したものです。当金庫営業地域の経済動向把握と共に、地域の中小企業の皆様に経営の参考にしていただく為にまとめたものです。

○調査対象時期 当期(令和元年7月～9月) 来期(今後3ヶ月：令和元年10～12月見通し)

○調査企業先数 当金庫お取引先492社 有効回答数448社

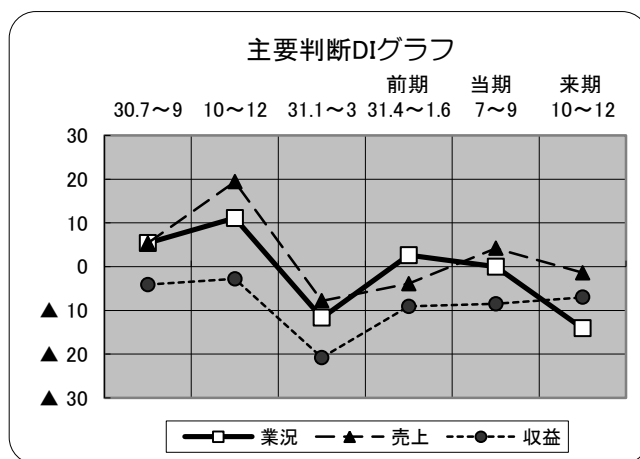
(内訳：製造業71社：卸売業45社：小売業99社：サービス業83社：建設業92社：不動産業58社)

# 製造業 ～今期は悪化 来期は大幅に悪化予測～

製造業の当期の業況判断DIは0.0と前期から2.6ポイント悪化しました。売上高の増加により資金繰りは苦しさは弱まり、売上高、収益ともに改善したものの業況はわずかながら悪化、前年同期からは5.4ポイントの悪化となりました。

来期は、原材料価格が当期よりやや上昇し、販売価格の上昇が弱まり、売上高及び受注残は減少に転じます、また設備状況の不足が悪化すると予想しており、業況判断DIは当期と比べて大幅に悪化すると予測しています。

| DI項目  | 前年同期<br>30.7～9月 | 前期<br>31.4～1.6月 | 当期<br>7～9月 | 来期(予測)<br>10～12月 |
|-------|-----------------|-----------------|------------|------------------|
| 業況    | 5.4             | 2.6             | 0.0        | ▲ 14.1           |
| 売上高   | 5.4             | ▲ 3.9           | 4.2        | ▲ 1.4            |
| 受注残   | 10.8            | ▲ 7.8           | 2.8        | ▲ 7.0            |
| 収益    | ▲ 4.1           | ▲ 9.1           | ▲ 8.5      | ▲ 7.0            |
| 販売価格  | 5.4             | ▲ 2.6           | 9.9        | 7.0              |
| 原材料価格 | 39.2            | 31.2            | 29.6       | 31.0             |
| 原材料在庫 | 5.4             | 5.2             | 9.9        | 4.2              |
| 資金繰り  | ▲ 6.8           | ▲ 14.3          | ▲ 9.9      | ▲ 8.5            |
| 設備状況  | ▲ 12.2          | ▲ 16.9          | ▲ 18.3     | ▲ 19.7           |

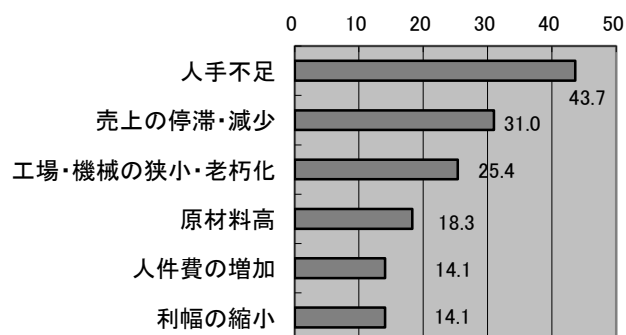


## 調査員コメント (ヒアリングによる企業のコメント等)

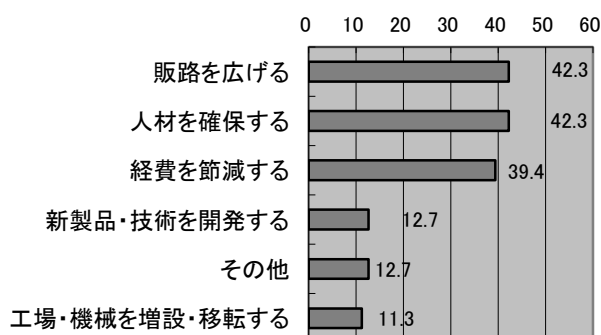
- ・10月からの消費税引上げに対応してレジをipadに切り換えた。(和洋菓子)
- ・消費税アップに伴うコストアップを価格に転嫁できない。(精密部品加工)
- ・消費税アップに伴う売上高の落込みが懸念され販路の拡大等対応が必要。(ピーナッツ)
- ・現在受注状況は順調、材料の金、銅の単価が下がれば利益率の改善となる。(農業機械部品)
- ・人手不足のため募集をかけても応募がない。(プラスチック製品)

## 製造業における経営上の問題点と重点経営施策について

【経営上の問題点：上位6項目(%)※複数回答】



【当面の重点経営施策：上位6項目(%)※複数回答】

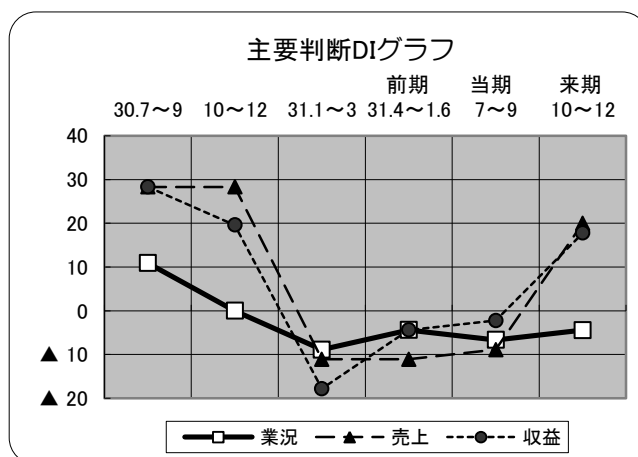


# 卸売業 ～今期は悪化、来期は改善予測～

卸売業の当期の業況判断DIは▲6.7で、前期から2.3ポイント悪化しました。仕入価格と販売価格は前期同様に推移した。売上高の減少傾向が弱まり、収益も適正価格に近付いたものの業況については、前年同期からは17.6ポイントの悪化となりました。

来期は、仕入価格の上昇分を販売価格に転嫁する事で売上高は大幅に上昇し、収益も大幅に増加、資金繰りも楽になると予想しており、業況判断DIは当期と比べて改善すると予測しています。

| DI項目 | 前年同期<br>30.7～9月 | 前期<br>31.4～1.6月 | 当期<br>7～9月 | 来期(予測)<br>10～12月 |
|------|-----------------|-----------------|------------|------------------|
| 業況   | 10.9            | ▲ 4.4           | ▲ 6.7      | ▲ 4.4            |
| 売上高  | 28.3            | ▲ 11.1          | ▲ 8.9      | 20.0             |
| 収益   | 28.3            | ▲ 4.4           | ▲ 2.2      | 17.8             |
| 販売価格 | 15.2            | 6.7             | 6.7        | 13.3             |
| 仕入価格 | 30.4            | 20.0            | 20.0       | 24.4             |
| 在庫   | 8.7             | ▲ 2.2           | 0.0        | ▲ 8.9            |
| 資金繰り | 2.2             | ▲ 4.4           | ▲ 2.2      | 2.2              |
| 設備状況 | ▲ 15.2          | ▲ 15.6          | ▲ 6.7      | ▲ 4.4            |

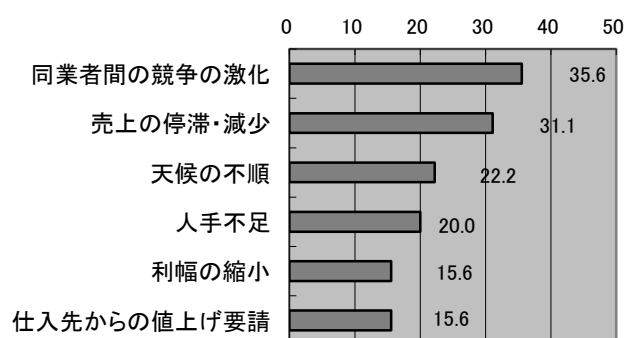


## 調査員コメント (ヒアリングによる企業のコメント等)

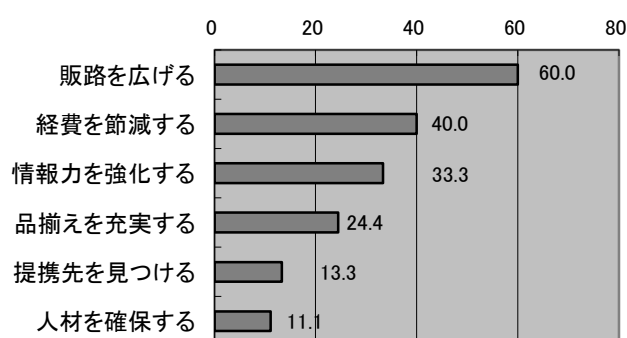
- ・軽減税率の混在など増税に対する対応ができていない。(海苔)
- ・消費税引上げに関する、機器、システム等、本部にて対応済み。(生産水産加工)
- ・人材確保の為に賃金上昇が販管費増加の大きな要因となっている。(アワビ、エビ)
- ・鉄、スクラップ価格の低下により、前年に比べ売上高が減少している。(鉄スクラップ)
- ・7月～8月は夏休みの影響で空港利用者が増加、売上高が大きく増加した。(菓子)

## 卸売業における経営上の問題点と重点経営施策について

【経営上の問題点：上位6項目(%)※複数回答】



【当面の重点経営施策：上位6項目(%)※複数回答】

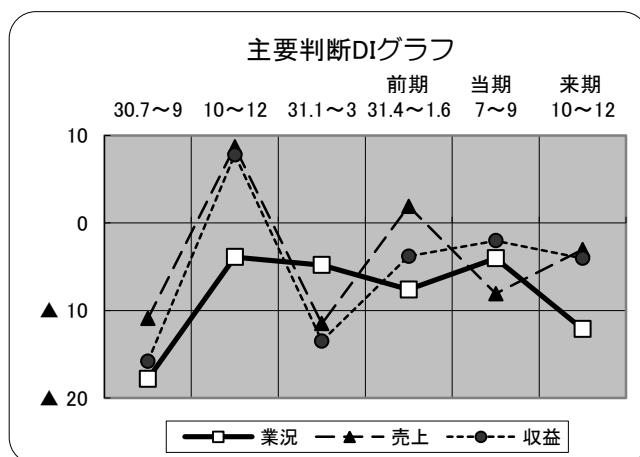


# 小売業 ～今期は改善、来期は悪化を予測～

小売業の当期の業況判断DIは▲4.0で、前期から3.6ポイント改善しました。仕入価格の上昇が大幅に弱まり販売価格の上昇も弱まった。売上高は減少したものの、収益の減少傾向は弱まり資金繰りの苦しさも弱まった事が業況改善の要因と考えられます。前年同期からは13.8ポイントの悪化となりました。

来期は、仕入価格が大幅に上昇、販売価格に転嫁されるものの、売上高の減少傾向が弱まる。収益は減少傾向が強まり、資金繰りも苦しさが増すと予想、業況判断DIは当期と比べて悪化すると予測しています。

| DI項目 | 前年同期<br>30.7～9月 | 前期<br>31.4～1.6月 | 当期<br>7～9月 | 来期(予測)<br>10～12月 |
|------|-----------------|-----------------|------------|------------------|
| 業況   | ▲ 17.8          | ▲ 7.6           | ▲ 4.0      | ▲ 12.1           |
| 売上高  | ▲ 10.9          | 1.9             | ▲ 8.1      | ▲ 3.0            |
| 収益   | ▲ 15.8          | ▲ 3.8           | ▲ 2.0      | ▲ 4.0            |
| 販売価格 | 5.9             | 13.3            | 9.1        | 17.2             |
| 仕入価格 | 19.8            | 26.7            | 14.1       | 24.2             |
| 在庫   | 1.0             | 10.5            | ▲ 1.0      | 7.1              |
| 資金繰り | ▲ 18.8          | ▲ 18.1          | ▲ 13.1     | ▲ 16.2           |
| 設備状況 | ▲ 14.9          | ▲ 18.1          | ▲ 13.1     | ▲ 15.2           |

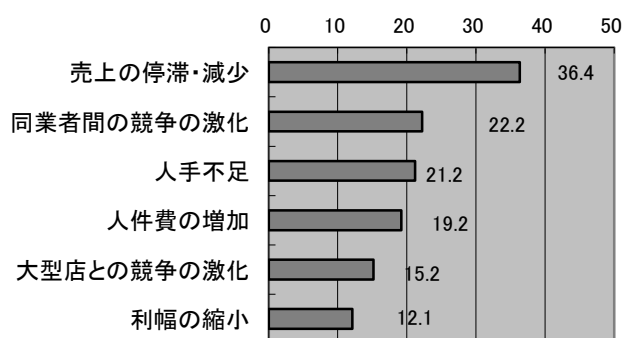


## 調査員コメント (ヒアリングによる企業のコメント等)

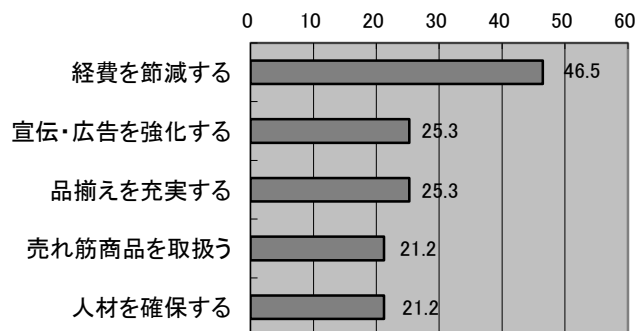
- ・ 小学校の体操服等を販売しているため、少子化の対策が喫緊の課題である。(衣類)
- ・ 他社との競争が激しいため、消費税アップに伴う値上げはできない。(仕出し弁当)
- ・ 近隣に同業者(コンビニ)がオープンし売上高がやや減少となった。(食料、酒類、たばこ)
- ・ 商店街の集客力低下。(青果)
- ・ 顧客を多数確保しており、消費税増税に関する影響は少ない。(車両)

## 小売業における経営上の問題点と重点経営施策について

【経営上の問題点:上位6項目(%)※複数回答】



【当面の重点経営施策:上位5項目(%)※複数回答】

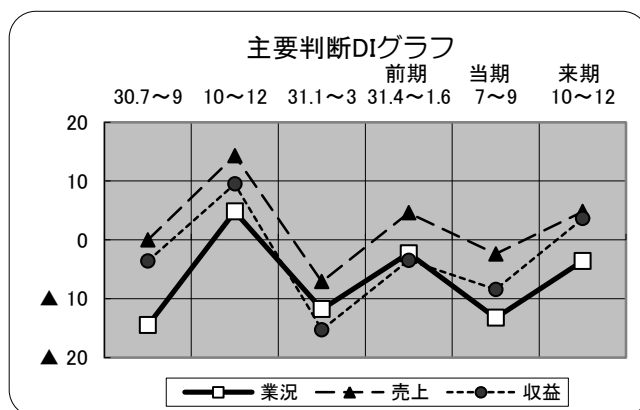


## サービス業 ～今期は悪化、来期は改善予測～

サービス業の当期の業況判断DIは▲13.3で、前期から11.0ポイント悪化しました。材料価格の上昇は依然強く、料金価格の転嫁は難しく売上高、収益とも減少となった事が業況悪化の要因と考えられます。前年同期からは1.2ポイントの改善となりました。

来期は、材料価格の上昇はさらに強まり、資金繰りは苦しさは増すものの、売上高、収益ともに増加に転じると予想、業況判断DIは当期と比べて改善すると予測しています。

| DI項目 | 前年同期<br>30.7～9月 | 前期<br>31.4～1.6月 | 当期<br>7～9月 | 来期(予測)<br>10～12月 |
|------|-----------------|-----------------|------------|------------------|
| 業況   | ▲ 14.5          | ▲ 2.3           | ▲ 13.3     | ▲ 3.6            |
| 売上高  | 0.0             | 4.6             | ▲ 2.4      | 4.8              |
| 収益   | ▲ 3.6           | ▲ 3.5           | ▲ 8.4      | 3.6              |
| 料金価格 | 2.4             | 3.5             | 2.4        | 9.6              |
| 材料価格 | 20.5            | 25.3            | 24.1       | 28.9             |
| 資金繰り | ▲ 10.8          | ▲ 12.6          | ▲ 10.8     | ▲ 12.1           |
| 設備状況 | ▲ 12.1          | ▲ 10.3          | ▲ 15.7     | ▲ 16.9           |

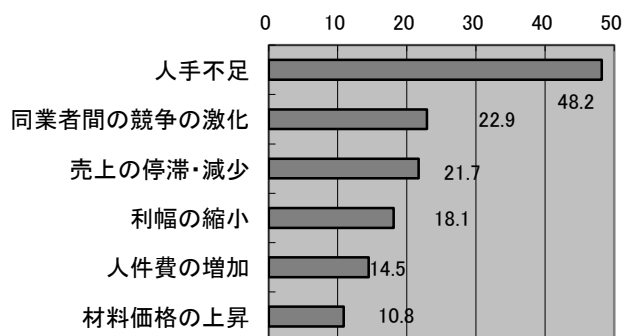


## 調査員コメント (ヒアリングによる企業のコメント等)

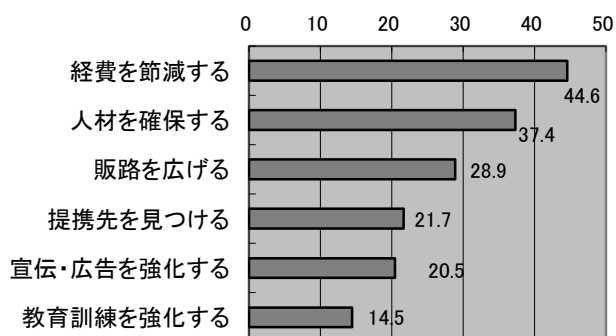
- ・ 近隣に同業者が複数営業している為、競争が激化している。（理容）
- ・ ネパール、ミャンマー、スリランカ等の留学生の受入れが厳しい状況。（日本語学校経営）
- ・ 軽減税率への対応に手が回らない状況。（総合消防設備）
- ・ 消費税増税後の売上高減少に対する改善策が見いだせない。（衣類のクリーニング）
- ・ 自動車販売が低迷、販促活動に力を入れる。（自動車整備）

## サービス業における経営上の問題点と重点経営施策について

【経営上の問題点：上位6項目(%)※複数回答】



【当面の重点経営施策：上位6項目(%)※複数回答】

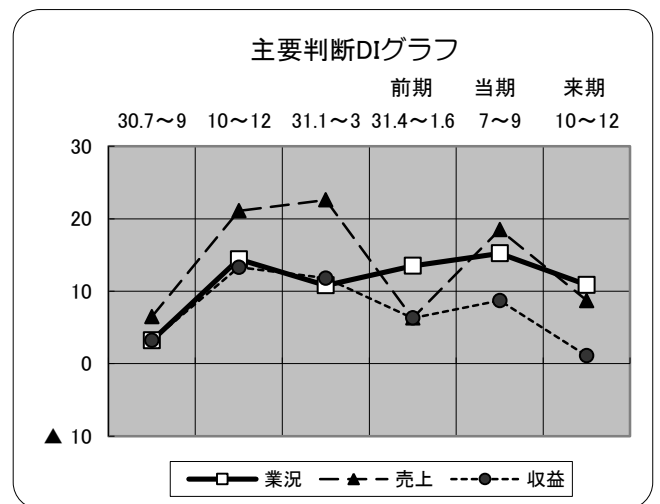


# 建設業 ～今期は改善、来期は悪化予測～

建設業の当期の業況判断DIは15.2で、前期から1.7ポイント改善しました。材料価格は高止まりとなっているものの、請負価格が上昇し受注残と施工高の上昇も強まり、資金繰りも安定、売上高、収益ともに大幅に増加となった事が業況改善の要因と考えられます。前年同期からは12.0ポイントの改善となりました。

来期は、材料価格の上昇が大きく、売上高と収益の増加は弱まり、資金繰りも苦しくなり、受注残と施工高が減少すると予想。業況判断DIは当期と比べて悪化すると予測しています。

| DI項目 | 前年同期<br>30.7～9月 | 前期<br>31.4～1.6月 | 当期<br>7～9月 | 来期(予測)<br>10～12月 |
|------|-----------------|-----------------|------------|------------------|
| 業況   | 3.2             | 13.5            | 15.2       | 10.9             |
| 売上高  | 6.5             | 6.3             | 18.5       | 8.7              |
| 受注残  | 3.2             | 10.4            | 20.7       | 0.0              |
| 施工高  | 1.1             | 8.3             | 18.5       | 3.3              |
| 収益   | 3.2             | 6.3             | 8.7        | 1.1              |
| 請負価格 | ▲ 1.1           | ▲ 1.0           | 5.4        | 7.6              |
| 材料価格 | 20.4            | 28.1            | 25.0       | 30.4             |
| 在庫   | ▲ 1.1           | 5.2             | ▲ 3.3      | ▲ 1.1            |
| 資金繰り | ▲ 4.3           | 1.0             | 0.0        | ▲ 5.4            |
| 設備状況 | ▲ 4.3           | ▲ 4.2           | 0.0        | ▲ 4.4            |

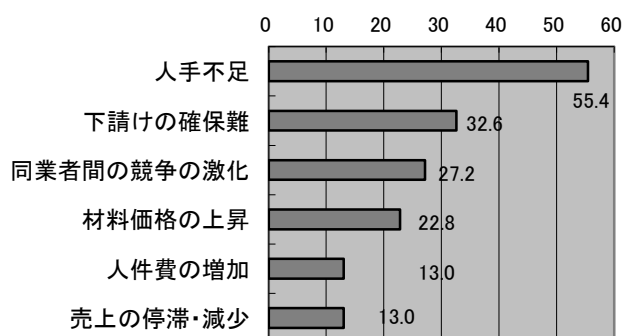


## 調査員コメント (ヒアリングによる企業のコメント等)

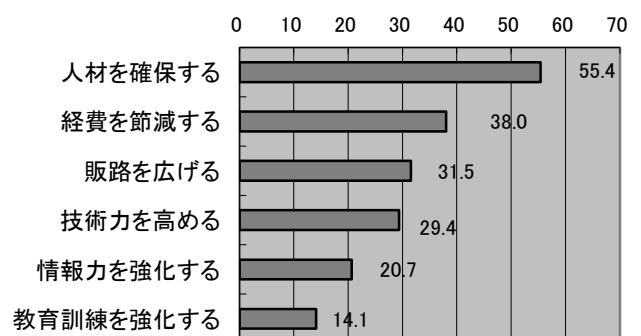
- ・人手不足による人件費の高騰は今後も続くものと思う。(建設業)
- ・業界全体として人材が不足しており、人件費が高騰している。(住宅建設)
- ・昨年と比べて、同時期の売上は増加している。(リフォーム工事業)
- ・税率引上げにより、値引き要請が予想されるため1年毎に契約を見直す予定。(熱絶縁工事)
- ・受注、業況安定しており、今後も業況順調に推移するものと思料。(建設業)

## 建設業における経営上の問題点と重点経営施策について

【経営上の問題点:上位6項目(%)※複数回答】



【当面の重点経営施策:上位6項目(%)※複数回答】

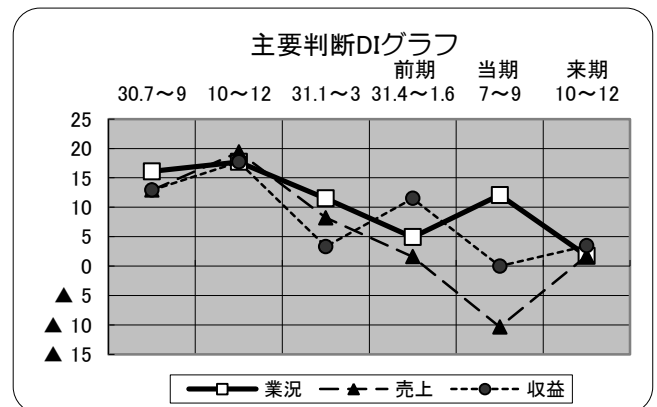


# 不動産業 ～業況は改善、来期は悪化の予測～

不動産業の当期の業況判断DIは12.1で、前期から7.2ポイント改善しました。仕入価格の上昇は弱まり、販売価格は減少に転じ、売上高は大幅な減少となった、収益は適正化されているものの、資金繰りはやや苦しくなり、前年同期から業況は4.0ポイントの悪化となりました。

来期は、仕入価格の上昇は緩和されるものの、販売価格は下降が強まり、資金繰りはさらに苦しくなると予想しており、業況判断DIは大幅に悪化すると予測しています。

| DI項目 | 前年同期<br>30.7～9月 | 前期<br>31.4～1.6月 | 当期<br>7～9月 | 来期(予測)<br>10～12月 |
|------|-----------------|-----------------|------------|------------------|
| 業況   | 16.1            | 4.9             | 12.1       | 1.7              |
| 売上高  | 12.9            | 1.6             | ▲ 10.3     | 1.7              |
| 収益   | 12.9            | 11.5            | 0.0        | 3.5              |
| 販売価格 | 4.8             | 3.3             | ▲ 5.2      | ▲ 8.6            |
| 仕入価格 | 12.9            | 21.3            | 10.3       | 6.9              |
| 在庫   | ▲ 29.0          | ▲ 36.1          | ▲ 37.9     | ▲ 32.8           |
| 資金繰り | 3.2             | ▲ 3.3           | ▲ 5.2      | ▲ 8.6            |

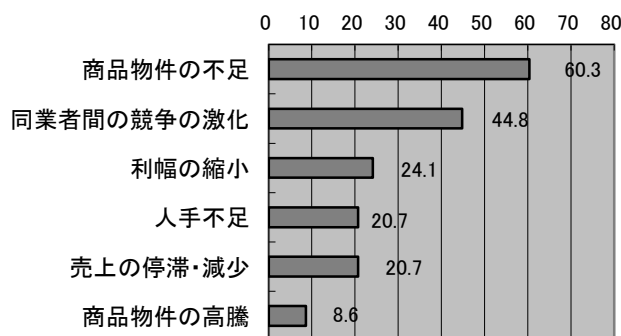


## 調査員コメント (ヒアリングによる企業のコメント等)

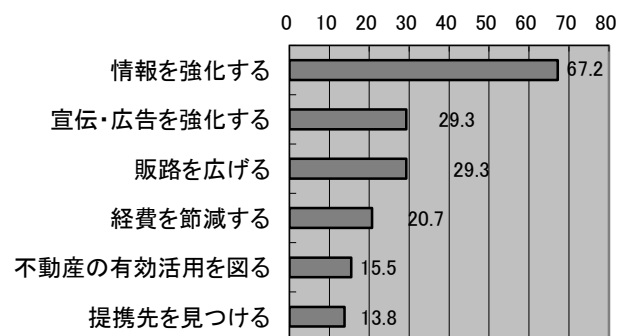
- ・商品物件については、回転が速く順調に利益を計上している。(不動産売買)
- ・商品物件における仕入価格が上昇傾向にある。(不動産売買)
- ・消費税率引上げ後の影響は住宅ローン減税等もあり影響は少ないと思料。(土地売買業仲介)
- ・情報力を強化し、販路拡大する。(不動産仲介管理)
- ・人材確保の為賃上げを実施した。(不動産売買賃貸)

## 不動産業における経営上の問題点と重点経営施策について

【経営上の問題点:上位6項目(%)※複数回答】



【当面の重点経営施策:上位6項目(%)※複数回答】

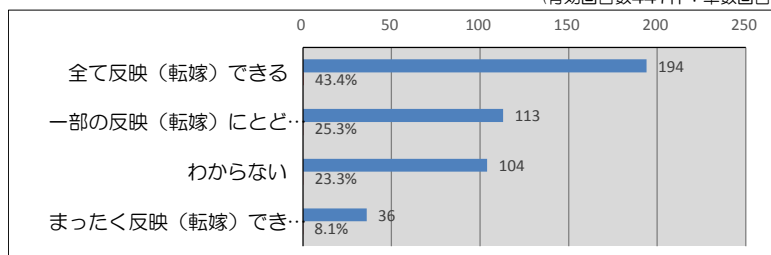


# 特別調査

## ～「消費税率引上げの影響と対応について」～

【2019年10月からの消費税率引上げについて販売価格にどの程度反映（転嫁）できますか】

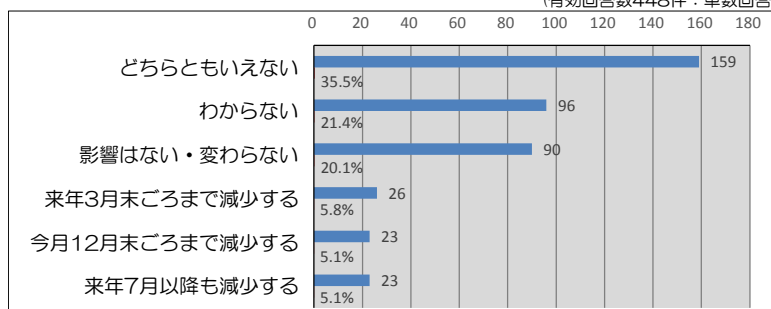
(有効回答数447件：単数回答)



全て転嫁できるとの回答が一番多く194件（43.4%）となり、続いて一部の転嫁にとどまる113件（25.3%）わからない104件（23.3%）、まったく転嫁できないが36件（8.1%）との結果となりました。

【2019年10月からの消費税率引上げは、売上に対し、どのような影響を与えると見込まれますか】

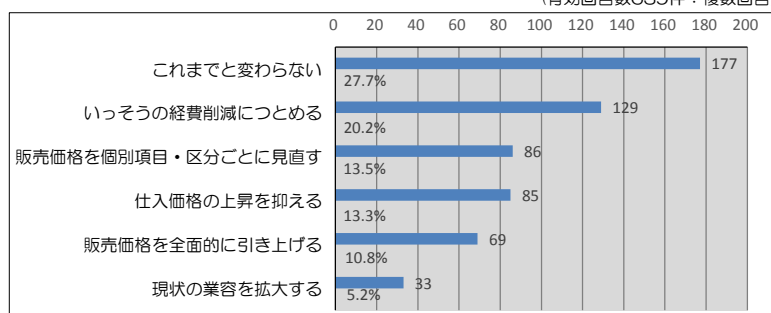
(有効回答数448件：単数回答)



どちらともいえない159件、わからない96件と全体の56.9%を占め消費税率引上げに対する不安な様子がうかがえます。影響はない・変わらないとの回答は90件（20.1%）ですが、来年7月以降も減少するとの回答も23件（5.1%）あり消費税アップによる影響が心配される結果となりました。

【2019年10月からの消費税率引上げ後の収益を確保するために、どのような対策を考えていますか】

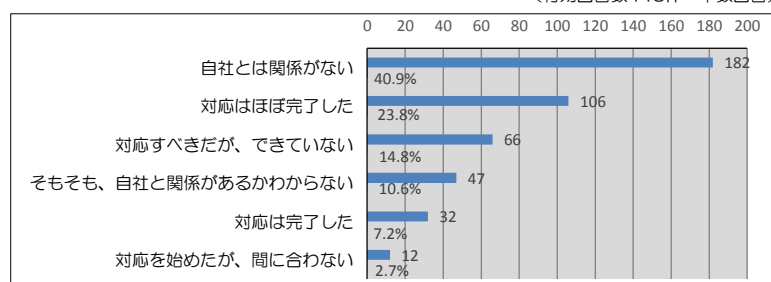
(有効回答数639件：複数回答)



これまでと変わらないが177件（27.7%）であったものの、いっそうの経費削減につとめる129件（20.2%）、販売価格を見直す86件（13.5%）、仕入価格の上昇を抑える85件（13.3%）、販売価格を全面的に引き上げる69件（10.8%）、現状の業容を拡大する33件（5.2%）などの結果となりました。

【今回導入される予定の軽減税率制度について、レジ改修などの何らかの対応をとっていますか】

(有効回答数445件：単数回答)



レジ改修等は自社とは関係ないが182件（40.9%）で一番多く、対応はほぼ完了したが106件（23.8%）、対応すべきだができていない66件（14.8%）自社と関係があるかわからない47件（10.6%）で、対応は完了したとの回答は32件（7.2%）にとどまり今後の推移が注視される結果となりました。



## 他の機関における景況調査結果

『商工会議所LOBO(早期景気観測)調査(令和元年9月期)』(日本商工会議所:9月30日発表)

### ＜業況DIは、改善するも力強さ欠く 先行きは、不透明感強く、慎重な見方崩れず＞

日本商工会議所が発表した9月の商工会議所LOBO(早期景気観測)調査結果によると、9月の全産業合計の業況DIは、▲20.0(前月比+1.0ポイント)と改善。省力化投資を中心とする設備投資や都市部の再開発などの民間工事が堅調な建設業や、家電製品など高額商品を中心に消費税引上げ前の駆け込み需要が見られた小売業の業況感が改善した。一方、卸売業からは台風15号や大雨の影響に伴う農産物や飲食料品の供給不足・価格上昇による業況悪化を指摘する声が聞かれた。深刻な人手不足や原材料費の高止まり、米中貿易摩擦や世界経済の先行き不透明感、根強い消費者の節約志向を指摘する声は依然として多く、中小企業の業況改善に向けた動きは力強さを欠く。

先行き見通しDIは▲24.5(今月比▲4.5ポイント)と悪化。個人消費の拡大やインバウンドを含む観光需要拡大への期待感がうかがえる。一方、消費税引上げの影響や人手不足の深刻化、原油価格を含む原材料費の上昇、コスト増加分の価格転嫁の遅れ、貿易摩擦の激化や世界経済の動向、日韓情勢の行方など不透明感が増す中、中小企業の業況感は慎重な見方が続く。

LOBO(早期景気観測)とは「CCI(CHAMBER OF COMMERCE AND INDUSTRY)-QUICK SURVEY OF LOCAL BUSINESS OUTLOOK」(商工会議所早期景気観測)からとった略称。

商工会議所職員によるヒアリング調査を338商工会議所の協力により、1,870企業を対象に実施したもの。

『法人企業景気予測調査(令和元年7月～9月期調査)』(内閣府、財務省:9月11日発表)

### ＜大企業、中堅企業は「上昇」超、中小企業は「下降」超＞

令和元年7～9月期の自社の景況感を示す景況判断指数(「上昇」の回答割合から「下降」の回答割合を引いた値)は、大企業全産業で1.1と前回調査結果の▲3.7に比べて4.8ポイント改善した。中堅企業については0.5と前回調査結果の▲5.3に比べて5.8ポイント改善した。中小企業については▲10.0と前回調査結果の▲15.0からは5.0ポイント改善した。全企業で改善となっています。大企業と中小企業の乖離は前回調査の11.3ポイントから11.1ポイントにわずかに縮小、中堅企業と中小企業の乖離は前回調査の9.7ポイントから10.5ポイントに拡大した。

令和元年10～12月の景況見通しを示す指数を全産業でみると、大企業は▲0.4で、今期の1.1から1.5ポイントの悪化を予測、中堅企業は▲4.5で、今期の0.5から5.0ポイント悪化を予測、中小企業は▲11.2で、今期の▲10.0から1.2ポイント悪化の予測となった。

本調査は調査時点を令和元年9月11日、調査対象企業の範囲を資本金、出資金又は基金(以下、「資本金」という)1千万円以上の法人(電気・ガス・水道業及び金融業、保険業は資本金1億円以上)として調査を実施。

なお、大企業とは資本金10億円以上の企業、中堅企業とは資本金1億円以上10億円未満の企業、中小企業とは資本金1千万円以上1億円未満の企業をいう。

回答法人数は大企業4,100社、中堅企業3,159社、中小企業4,408社の合計11,667社。

# ちばしんきん経営者会のご案内

**もっと経営力を高めたい！  
他の経営者と交流を深めたい！**

ちばしんきん経営者会は、地元の中小企業経営者あるいはその後継者を会員として、会員相互の情報交換と経営問題について、その時々ニーズに合ったセミナーや講演会等を開催しています。

各種行事を通じて「新しい時代の経営環境に適應できる会員の経営力の向上と、その企業の健全な発展を図る」という基本理念のもと、会員の皆様も積極的に参加していただいています。

会員同士の交流も活発に行われ、そのネットワークも大きく広がっています。

令和元年9月末現在、235名の会員様が入会されています。

# ちばしんきんコラボ産学官のご案内

**開発・改良に向けてのアドバイスを受けたい！  
マーケティングや販売方法について相談したい！**

ちばしんきんコラボ産学官（事務局：千葉信用金庫）では、技術や研究等に関する相談を受付けています。また、大学等研究機関や支援機関のご協力により、県内の各地でセミナーや相談会等を開催しています。

ちばしんきんコラボ産学官は、産学官連携による研究開発を促進し、新商品・新産業の創出により地域経済の活性化を図ることを目的として平成19年3月に設立しました。

「技術的な課題を解決したい」、「開発改良に向けてのアドバイスを受けたい」などのご相談に大学等研究機関に直接持ち込み、ニーズとシーズ（技術やノウハウ）のマッチングを図ります。

令和元年9月末現在、146社の会員様が入会されています。

千葉信用金庫、中小企業の景気動向調査へのみなさまのご意見、ご要望をお寄せください。

千葉信用金庫 地域推進部

TEL 043-221-3683 担当 伊藤